

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2024年 4月 1日

広島工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場  
長門大和建設株式会社 音戸工場  
〒737-1206 呉市音戸町高須3丁目15番6号  
TEL 0823-50-0023 FAX 0823-50-0063  
配合計画者名 山下 孝之

工事名称												
所在地												
納入予定時期												
本配合の適用期間 a)		標準配合・3月下旬～7月上旬・10月上旬～12月上旬										
コンクリートの打込み箇所												
配合の設計条件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ <sup>g)</sup> 又はスランブ <sup>h)</sup> フォー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号							
	普通	27	cm 12	mm 20	BB							
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載							
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB -							
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>							
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%							
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	呼び強度を保証する材齢	28日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	空気量	4.5%		流動化後のスランブ増大量	cm							
使用材料 c)												
セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社 赤穂工場		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq % d)						
混和材①	製品名			種類			密度 g/cm <sup>3</sup>					
混和材②	製品名			種類			Na <sub>2</sub> O eq % e)					
骨材	No.	種類	産地又は品名	7) 骨材反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % i)			
				区分	試験方法							
細骨材①	砕砂	呉市広町字蜘蛛取迫		A	化学法	5～0	2.84	2.59	2.62	7.0±2.0		
細骨材②	石灰砕砂	戸高鉱山		A	モルタルバー法	5～0	3.00	2.66	2.67	7.0±2.0		
粗骨材①	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20～05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
粗骨材②	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20～05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
混和剤①	製品名			種類			Na <sub>2</sub> O eq % j)					
混和剤②	製品名	フローリック SV10L		種類	AE減水剤(標準形I種)							
細骨材の塩化物量 k)			%水の区分 l)	上澄水/上水道水	目標スランブ 固形分率 m)							
回収骨材の使用法 n)	細骨材			粗骨材			安定化スランブ水の使用の有・無					
配合表 o) kg/m <sup>3</sup>												
セメント	混和材	水	細骨材			粗骨材			混和剤 p)			
	①	②	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330		173	514	280		402	602			3.30		
水セメント比 q)	52.5%		水結合材比 q)			%細骨材率			44.7%			
備考	骨材の質量配合割合 <sup>r)</sup> 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。					骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		65.0:35.0		
								粗骨材①:②		40.0:60.0		

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の標準期間における標準配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。  
 b) 表 3.1 の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。  
 c) ボルトランドセメント及び普通ポルトランドセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210 の全アルカリの値としては、産後6か月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。  
 d) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。  
 e) 最新版の骨材試験成績表の値を記入する。  
 f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。  
 g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽集骨材、及び再生細骨材目では粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽集骨材、及び再生粗骨材目では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
 h) 細骨材に対しては粗骨材の値を、粗骨材に対しては、実積率又は粗粒率の値を記入する。  
 i) 砕石、加砂及びスラグ骨材を使用する場合に記入する。  
 j) 最新版の骨材試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。  
 k) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。  
 l) 回収水のうちスランブ水を使用する場合は、「回収水(スランブ水)」と記入する。  
 m) スランブ水を使用する場合に記入する。目標スランブ固形分率は、3%以下のスランブ固形分率の限度を保證できるように定めた値である。また、スランブ固形分率を1%未満で使用する場合には、「1%未満」と記入する。  
 n) 回収骨材の使用法を記入する。回収骨材置換率の上限が5%以下の場合は「A方法」、20%以下の場合は「B方法」と記入する。  
 o) 人工軽集骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は、表面乾燥状態の質量で表す。  
 p) 空気量調整剤は、記入する必要はない。  
 q) セメントだけを使用した場合は、水セメント比を記入する。高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シリカフェーム又は膨脹材を結合材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。  
 r) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。  
 s) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ記入する。  
 t) 購入者から追加を受けたアルカリ量を併用して計算する。  
 u) 骨材モルタルのスランブ化に使用した場合の全アルカリ量は、F.6.2 によって求めた値を、安定化スランブ水の作製に用いた場合の全アルカリ量は、G.8.2 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スランブ <sup>°</sup> 又はスランブ <sup>°</sup> フォー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齡	28日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5%		流動化後のスランブ増大量	cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 9 %

(2) 配合強度(m)  

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.25 \cdot v}{100}} = 1.254$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.254 \times 27 = 33.9 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 33.9 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C) m = -15.60 + 26.10 × C/W  

$$W/C = 26.10 \div (33.9 + 15.60) \times 100 = 52.5 \% \leq \text{【55.0\% (上限値)]}$$

$$\therefore W/C = 52.5 \%$$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 173 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C) C = W ÷ (W/C) × 100 = 173 ÷ 52.5 × 100 = 330 kg/m<sup>3</sup>  
 Cv = C ÷ 密度 = 330 ÷ 3.04 = 109 L/m<sup>3</sup>

(6) 空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m<sup>3</sup>

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.605 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 61.5 %  

$$G_v = 0.605 \times 1000 \times 61.5 \div 100 = 372 \text{ L/m}^3$$

$$G1 = G1_v \times \text{表乾密度} = 149 \times 2.70 = 402 \text{ kg/m}^3$$

$$G2 = G2_v \times \text{表乾密度} = 223 \times 2.70 = 602 \text{ kg/m}^3$$

$$G1_v = G_v \times 40.0 \% = 149 \text{ L/m}^3$$

$$G2_v = G_v \times 60.0 \% = 223 \text{ L/m}^3$$

(8) 単位細骨材量(S) Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 699 = 301 L/m<sup>3</sup>  

$$S1 = S1_v \times \text{表乾密度} = 196 \times 2.62 = 514 \text{ kg/m}^3$$

$$S2 = S2_v \times \text{表乾密度} = 105 \times 2.67 = 280 \text{ kg/m}^3$$

$$S1_v = S_v \times 65.0 \% = 196 \text{ L/m}^3$$

$$S2_v = S_v \times 35.0 \% = 105 \text{ L/m}^3$$

(9) 細骨材率(s/a) s/a = Sv ÷ (Gv + Sv) × 100 = 44.7 %

(10) 単位混和剤量(Ad) Ad = C × 添加率 = 330 × 1.0000 % = 3.30 kg/m<sup>3</sup>

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
330			173	514	280		402	602					3.30	
水セメント比	52.5 %		細骨材率	44.7 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				65.0:35.0 40.0:60.0		

備考

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

広島工業組合 殿

2024年 4月 1日

日本工業規格表示認証工場  
長門大和建設株式会社 音戸工場  
〒737-1206 呉市音戸町高須3丁目15番6号  
TEL 0823-50-0023 FAX 0823-50-0063  
配合計画者名 山下 孝之

工事名称												
所在地												
納入予定時期												
本配合の適用期間 a)		夏期修正標準配合・7月上旬～10月上旬										
コンクリートの打込み箇所												
配合の設計条件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm		粗骨材の最大寸法 mm			セメントの種類による記号				
	普通	27	12		20			B B				
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載			粗骨材の最大寸法			呼び方欄に記載				
	骨材の種類	使用材料欄に記載			アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)			B B				
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量			kg/m <sup>3</sup>				
	水の区分	使用材料欄に記載			コンクリートの温度			最高・最低 °C				
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			水セメント比の目標値の上限			55 %				
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下			単位水量の目標値の上限			kg/m <sup>3</sup>				
	呼び強度を保證する材齢	28 日			単位水量の目標値の下限又は目標値の上限			kg/m <sup>3</sup>				
	空気量	4.5 %			流動化後のスランプ増大量			cm				
使用材料 c)												
セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社 赤穂工場			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq % d)					
混和材①	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O eq % e)						
混和材②												
骨材	No.	種類	産地 又は 品名		アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % i)			
					区分 試験方法			絶乾表乾				
細骨材①	砕砂	呉市広町字蜘蛛取迫		A	化学法	5~0	2.84	2.59	2.62	7.0±2.0		
骨材②	石灰砕砂	戸高鉱山		A	モルタルバー法	5~0	3.00	2.66	2.67	7.0±2.0		
粗骨材①	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20~05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
粗骨材②	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20~05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
粗骨材③												
粗骨材④												
混和剤①							Na <sub>2</sub> O eq % j)					
混和剤②	製品名	フローリック SV10L		種類		AE減水剤(標準形 I 種)						
混和剤③												
細骨材の塩化物量 k)		%水の区分 l)			上澄水/上水道水	目標スランプ 固形分率 m)		%				
回収骨材の使用法 n)		細骨材	粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無							
配合表 o) kg/m <sup>3</sup>												
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材			混和剤 p)		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②
	335		176	506	278		402	602			4.02	
水セメント比 q)		52.5 %		水結合材比 q)		%			細骨材率			44.4 %
備考		骨材の質量配合割合 r), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。				骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		65.0:35.0		
								粗骨材①:②		40.0:60.0		

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
b) 配合設計に用いた材料について記入する。  
c) 配合設計に用いた材料について記入する。  
d) ゴルタンとセメント及び普通セメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210の全アルカリの範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。  
e) 配合設計に用いた材料について記入する。  
f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。  
g) 骨材に対するは、砕砂、スラッグ骨材、及び再生骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラッグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
h) 骨材に対するは、実積率又は粗粒率の値を記入する。  
i) 砕石、砕砂及びスラッグ骨材を使用する場合に記入する。  
j) 最新の骨材試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。  
k) 最新の混和剤試験成績表の値を記入する。  
l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水(スラッジ水)”と記入する。  
m) スラッジ水を使用する場合は、目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保證できるように定めた値である。また、スラッジ固形分率が1%未満で使用する場合には、“1%未満”と記入する。  
n) 回収骨材の使用法を記入する。回収骨材置換率の上限が5%以下の場合には“A方法”、20%以下の場合には“B方法”と記入する。  
o) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は、表面乾燥飽水状態の質量で表す。  
p) 空気量調整剤は、記入する必要がある。  
q) セメントだけを使用した場合は、水セメント比を記入する。高炉スラッグ微粉末、フライアッシュ、シリカフューム又は膨張材を結合材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。  
r) 全骨材の質量に対する各骨材の質量割合をいう。  
s) コンクリート中のアルカリ総量を規制する制御対策の方法を詳しく記入する。  
t) 購入者から通知を受けたアルカリ量を以て計算する。  
u) 付音モルタルのスラリー化に使用した場合の全アルカリ量は F.6.2 によって求めた値を、安定化スラッジ水の作製に用いた場合の全アルカリ量は G.8.2 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スランプ又はスランプフロー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項(任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5%		流動化後のスランプ増大量	cm

- (1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 9 %
- (2) 配合強度(m)
- $$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.25 \cdot v}{100}} = 1.254$$
- $$m = \alpha_1 \times S_L = 1.254 \times 27 = 33.9 \text{ N/mm}^2$$
- よって m = 33.9 N/mm<sup>2</sup>
- (3) 水セメント比(W/C)  $m = -15.60 + 26.10 \times C/W$   
 $W/C = 26.10 \div (33.9 + 15.60) \times 100 = 52.5 \% \leq \text{【55.0\% (上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 52.5 \%$
- (4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 176 kg/m<sup>3</sup>
- (5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 176 \div 52.5 \times 100 = 335 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 335 \div 3.04 = 110 \text{ L/m}^3$
- (6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$
- (7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.605 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 61.5 %  
 $G_v = 0.605 \times 1000 \times 61.5 \div 100 = 372 \text{ L/m}^3$   
 $G1_v = G_v \times 40.0 \% = 149 \text{ L/m}^3$   $G1 = G1_v \times \text{表乾密度} = 149 \times 2.70 = 402 \text{ kg/m}^3$   
 $G2_v = G_v \times 60.0 \% = 223 \text{ L/m}^3$   $G2 = G2_v \times \text{表乾密度} = 223 \times 2.70 = 602 \text{ kg/m}^3$
- (8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 703 = 297 \text{ L/m}^3$   
 $S1_v = S_v \times 65.0 \% = 193 \text{ L/m}^3$   $S1 = S1_v \times \text{表乾密度} = 193 \times 2.62 = 506 \text{ kg/m}^3$   
 $S2_v = S_v \times 35.0 \% = 104 \text{ L/m}^3$   $S2 = S2_v \times \text{表乾密度} = 104 \times 2.67 = 278 \text{ kg/m}^3$
- (9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.4 \%$
- (10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 335 \times 1.2000 \% = 4.02 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
335			176	506	278		402	602					4.02	
水セメント比	52.5 %		細骨材率	44.4 %			骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②		65.0:35.0 40.0:60.0			

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2024年 4月 1日

広島工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場  
長門大和建设株式会社 音戸工場  
〒737-1206 呉市音戸町高須3丁目15番6号  
TEL 0823-50-0023 FAX 0823-50-0063  
配合計画者名 山下 孝之

工事名称												
所在地												
納入予定時期												
本配合の適用期間 a)		冬期修正標準配合・12月上旬～3月下旬										
コンクリートの打込み箇所												
配合の設計条件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号							
	普通	27	12	20	BB							
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載							
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB -							
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>							
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 ℃							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%							
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	呼び強度を保証する材齢	28日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	空気量	4.5%		流動化後のスランプ増大量	cm							
使用材料 c)												
セメント	生産者名	住友大阪セメント株式会社 赤穂工場		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq % d)						
混和材①	製品名			種類			密度 g/cm <sup>3</sup>					
混和材②	製品名			種類			Na <sub>2</sub> O eq % e)					
骨材	No.	種類	産地又は品名	7) 骨材反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % i)			
				区分	試験方法				絶乾	表乾	範囲 %	
細骨材①	砕砂	呉市広町字蜘蛛取迫		A	化学法	5~0	2.84	2.59	2.62	7.0±2.0		
骨材②	石灰砕砂	戸高鉱山		A	モルタルバー法	5~0	3.00	2.66	2.67	7.0±2.0		
粗骨材①	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20~05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
粗骨材②	2005	戸高鉱山		A	モルタルバー法	20~05	61.5	2.70	2.70	1.0±1.0		
粗骨材③												
粗骨材④												
混和剤①	製品名			種類			Na <sub>2</sub> O eq % j)					
混和剤②	製品名	フローリック SV10L		種類	AE減水剤(標準形I種)							
混和剤③	製品名			種類								
細骨材の塩化物量 k)		%水の区分 l)		上澄水/上水道水	目標スランプ		固形分率 m)		%			
回収骨材の使用法 n)		細骨材		粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無						
配合表 o) kg/m <sup>3</sup>												
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材			混和剤 p)		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②
324				170	521	286	402	602			2.59	
水セメント比 q)		52.5%		水結合材比 q)		%細骨材率		45.1%				
備考		骨材の質量配合割合 r), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。				骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		65.0:35.0		
								粗骨材①:②		40.0:60.0		

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。  
b) 表 B.1 の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。  
c) 配合設計に用いた材料について記入する。  
d) ボルトライトセメント及び普通ポルトランドセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近6か月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。  
e) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。  
f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。  
g) 細骨材に対しては、砕砂、スラッグ骨材、人工軽集骨材、及び再生細骨材目では粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラッグ骨材、人工軽集骨材、及び再生粗骨材目では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
h) 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実積率又は粗粒率の値を記入する。i) 砕石、砕砂及びスラッグ骨材を使用する場合に記入する。  
j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。  
k) 最新版の骨材試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。  
l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水 (スラッジ水)” と記入する。  
m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率は、3%以下のスラッジ固形分率の限度を確保できるように定めた値である。また、スラッジ固形分率が1%未満で使用する場合に、“1%未満”と記入する。  
n) 回収骨材の使用法を記入する。回収骨材置換率の上限が5%以下の場合は“A方法”、20%以下の場合は“B方法”と記入する。  
o) 人工軽集骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は、表面乾燥飽水状態の質量で表す。  
p) 空気調整剤は、記入する必要がある。  
q) セメントだけを使用した場合、水セメント比を記入する。高炉スラッグ微粉末、フライアッシュ、シリカフェーム又は膨脹材を結合材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。  
r) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。  
s) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ記入する。  
t) 購入者から通知を受けたアルカリ量を記入する。  
u) 行着モルタルのスラリー化に使用した場合の全アルカリ量は F.6.2 によって求めた値を、安定化スラッジ水の作製に用いた場合の全アルカリ量は G.8.2 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ <sup>°</sup> 又はスランブ <sup>°</sup> フォー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	27	cm 12	mm 20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材の <sup>カ</sup> アルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
空気量	4.5%		流動化後のスランブ増大量	cm	
(1)変動係数(v)			当工場の実績により v = 9 %		
(2)配合強度(m)			よって m = 33.9 N/mm <sup>2</sup>		
$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2.25 \cdot v}{100}} = 1.254$ $m = \alpha_1 \times S_L = 1.254 \times 27 = 33.9 \text{ N/mm}^2$					
(3)水セメント比(W/C)			$m = -15.60 + 26.10 \times C/W$ $W/C = 26.10 \div (33.9 + 15.60) \times 100 = 52.5 \% \leq \text{【55.0\%(上限値)】}$ $\therefore W/C = 52.5 \%$		
(4)単位水量(W)			当工場の実績により W = 170 kg/m <sup>3</sup>		
(5)単位セメント量(C)			$C = W \div (W/C) \times 100 = 170 \div 52.5 \times 100 = 324 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 324 \div 3.04 = 107 \text{ L/m}^3$		
(6)空気量(A)			A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m <sup>3</sup>		
(7)単位粗骨材量(G)			当工場の実績により かさ容積 = 0.605 m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> 実積率 = 61.5 % $G_v = 0.605 \times 1000 \times 61.5 \div 100 = 372 \text{ L/m}^3$ $G1v = G_v \times 40.0 \% = 149 \text{ L/m}^3 \quad G1 = G1v \times \text{表乾密度} = 149 \times 2.70 = 402 \text{ kg/m}^3$ $G2v = G_v \times 60.0 \% = 223 \text{ L/m}^3 \quad G2 = G2v \times \text{表乾密度} = 223 \times 2.70 = 602 \text{ kg/m}^3$		
(8)単位細骨材量(S)			$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 694 = 306 \text{ L/m}^3$ $S1v = S_v \times 65.0 \% = 199 \text{ L/m}^3 \quad S1 = S1v \times \text{表乾密度} = 199 \times 2.62 = 521 \text{ kg/m}^3$ $S2v = S_v \times 35.0 \% = 107 \text{ L/m}^3 \quad S2 = S2v \times \text{表乾密度} = 107 \times 2.67 = 286 \text{ kg/m}^3$		
(9)細骨材率(s/a)			s/a = S <sub>v</sub> ÷ (G <sub>v</sub> + S <sub>v</sub> ) × 100 = 45.1 %		
(10)単位混和剤量(Ad)			Ad = C × 添加率 = 324 × 0.8000 % = 2.59 kg/m <sup>3</sup>		

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤					
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③			
324			170	521	286		402	602					2.59			
水セメント比	52.5 %		細骨材率	45.1 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:②		65.0:35.0		粗骨材①:②			40.0:60.0	

備考